

重点取組分野	元 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	9年間の連続した学びの中で、基礎的な知識及び技能の習得を基本に、主体的に学ぶこととする児童生徒を育てるために、授業研究を小中合同で行います。各教科で言語活動を取り入れ、授業を互いに参観し、情報を交換していきます。一人ひとりの生徒の学ぶ意欲をいかに高めるかを課題として主体的な深い学びの方法を研究していきます。	基礎学力定着と、主体的な学び実現のため、学習目標と本時のまとめを提示し授業を行った。小中で研究授業を行い協議会で意見交換した。学ぶ意欲を高める授業をめざし、教員の授業力を高める研究を重ね、指導方法を工夫していきたい。	B
豊かな心	人権意識の育成のために道徳の授業を充実させ、各教科、領域、行事でも関連して指導します。また、人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長を促すことができました。道徳の授業のさらなる充実のために、公開授業や研修会等を行って、道徳の授業について考え、語り合う時間をとりたい。	道徳の授業を充実させ、各教科、領域、行事でも関連して指導します。また、人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長を促すことができました。道徳の授業のさらなる充実のために、公開授業や研修会等を行って、道徳の授業について考え、語り合う時間をとりたい。	B
健やかな体	新体力テストの結果を生徒各自が考察し「一人一実践体力向上プログラム」を作成し、自らの生活の中で実践していく態度を育てます。また、保健体育の授業開始時の準備運動において、体つくりのトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図ります。体育大会に向けた屋休みの大縄や、リレーの練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図ります。	保健体育の体育分野では、授業の中での体力トレーニングや各単元の特性に合わせた運動を行うことで体力の向上を図った。保健分野で、体力向上に向けて知識を深め、日常生活に活かしていけるようさらに工夫し、個々の体力への関心をさらに深めていきたい。	B
生徒指導	生徒との関わりを大切にし、生徒理解に努めます。特に教育相談については、全生徒の抱える状況を把握します。また各家庭との連絡を密に行い、協力関係作りを努めます。職員間での情報共有を図り、全職員で全生徒を見守ります。さらに、PTA活動や学地協働事業等を通して、生徒の健全育成のために保護者、地域との組織的な連携を図ります。	生徒の活動場所に職員がいることを心かけた。家庭連絡を密にすることで協力関係を築くことができました。定期的な職員の情報共有の場をふやし全職員で全生徒を見守る雰囲気を作ることができた。生徒の安心感と信頼感につなげるため、生徒、保護者との更なる共通理解が必要だと感じた。	B
キャリア教育	自己のキャリアプランの立案にむけ、必要な情報を取捨選択し、整理して活かしていく事前学習を計画します。特に2年生の職場体験では、働く現場を想定したマナーの習得や体験先で求められる活動のロールプレイを通してキャリアへの知識を深め、勤労観や職業観を培います。	キャリア学習を活用し、職業間の関連や専門性などを具体的に学ぶことで、実際の現場で求められる能力について考えることができた。しかしながら、その活動を次年度や他教科と結びつけることができず、キャリア学習期間以外での取組に温度差が見られる。	B
地域連携	学校行事をサポートしたり、校内環境を整えたりする保護者のワンドーサポーター活動を活性化させます。地域連携においては、鯉のぼりフェスタ、スポーツ交流会、もちつき大会などに生徒が自主的に参加できるように工夫し、生徒、職員、地域の交流を深めます。また、学校HPや学校便りによって、保護者や地域に積極的に情報の発信を行います。	学校行事のサポートや校内環境の整備で、保護者のワンドーサポーター活動を活発にすることができた。地域連携においては、生徒が自主的に参加することができ、地域との交流を深めることができた。情報発信については、学校HPの積極的な活用が課題となった。	B
いじめへの対応	誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりのためにY-Pアセスメントを活用します。また、教育相談やアンケートで、生徒がSOSを発信しやすい仕組みや環境づくりと維持に努めます。いじめと思われる事態が発生した場合には、組織的な情報共有と対応によって迅速に問題解決ができるようになります。	誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりのためにY-Pアセスメントを活用することができた。教育相談やアンケートで生徒のSOSをキャッチし、組織的な情報共有を実施することで、生徒に寄り添った指導と迅速な問題解決につなげることができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを組織し、リーダーを中心に年間計画を作成・研修テーマに沿って自主的な研修活動を推進するとともに、ステージ3の教職員を助言者や講師に招き経験に基づく実践的な研修を進める。 ②学校閉庁日、留守番電話、毎月の定時退勤日を設定することで、働き方改革を計画的に進める。	経験年数の少ない教職員を中心に自主的な研修活動を年間を通して計画的に推進してきた結果、中堅職員やステージ3の職員の積極的な参加がみられ、テーマに沿って充実した研修が行われた。閉庁日、課業時間以降と休日の留守番電話設定等が、機会あるごとに保護者・地域にも周知され十分な理解に結びつきつつある。	B
ブロック内評価後の気付き	7月に中学校での研究授業と協議会を行い、中学生の学習の様子を見ることができた。2月に小学校での研究授業と協議会を行い、児童の学習活動の様子を知ることができた。研究協議会では、「児童・生徒の主体的な学びを中心とした言語活動の推進」をテーマに意見交換をし、小学校と中学校の学習内容の接続や、目指す資質能力について理解を深めることができた。8月の研修会では、「児童虐待への対応」について、講演会及びロールプレイを行い、組織として児童・生徒に対応することの大切さを、確認することができた。	今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、小中ブロックでの授業見学や研究協議会は行うことができなかったが、教務主任同士で連絡を取り合い、来年度に向けてこの状況下でも取り組めるような連携活動について考えることができた。9年間の学びの連続性や自分づくりパスポートの運用など今後小中中で連携を取り合って、ブロック全体で1つの目標や課題に取り組んでいく。	
学校関係者評価	本年度も、学習、生徒指導、学校行事、地域行事への参加などを通し、落ち着いた様子が見え、生徒指導の充実やいじめ再発防止に向けて、全職員がチーム舞岡として取り組んでいることが感じられる。次年度も、現在の学校の体制を維持・発展できるように取り組んでいってほしい。	今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、学校行事が縮小や中止となり、保護者や地域が学校や生徒と関わる機会も少なくなりましたが、来校の際や地域で顔を合わせた際には、元気よく挨拶等ができ、生徒たちの健やかな成長を感じることができた。また、世の中が不安を抱えながら生活をしている中で、多くの生徒が笑顔で登校し、落ち着いた環境で授業が受けられていることはとてもよかったと思う。次年度は出来る限りの中で、学校・家庭・地域が協力して活動できる方法を考え、実行し、生徒たちの成長を見守りたい。	

重点取組分野	2 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①基礎学力の定着を目指し、より明確に学習のめあてやまとめの提示を行って、生徒が学習の流れやイメージを持ちながら主体的な学びができるよう授業を目指します。 ②9年間通しての学びの連続性を重要視して、研究協議会を重ね、小中の連携を高めます。 ③校内研究授業を通して、教科指導方法の向上を目指します。	①今年度も引き続き授業の目標とまとめを生徒に提示し行うことで、明確な学びの時間を展開することができた。また、ICT機器を利用した授業が充実し、より多様な視点から授業ができていた。 ②臨時休校期間中の学びの空白が生徒の不利益とならないよう、入念に確認・準備をして学習を進め、新1年生も含めスムーズに学習の接続ができた。 ③新学習指導要領について研修会や教科会を開くことで、次年度からのカリキュラムの準備がきちんできてきた。	B
豊かな心	人権意識の育成のために道徳の授業を充実させ、各教科、領域、行事でも関連して指導します。また、人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長を促すことができます。道徳の授業のさらなる充実のために、公開授業や研修会等を行って、道徳の授業について考え、来年度へつなげたい。	道徳の授業を充実させ、各教科、領域、行事でも関連して指導します。また、人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長を促すことができました。道徳の授業のさらなる充実のために、公開授業や研修会等を行って、道徳の授業について考え、来年度へつなげたい。	B
健やかな体	新体力テストの結果を生徒各自が考察し「一人一実践体力向上プログラム」を作成し、自らの生活の中で実践していく態度を育てます。また、保健体育の授業開始時の準備運動において、体つくりのトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図ります。体育大会に向けた屋休みの大縄や、リレーの練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図ります。	保健体育の体育分野では、授業の中での体力トレーニングや各単元の特性に合わせた運動を行うことで体力の向上を図った。保健分野で、体力向上に向けて知識を深め、日常生活に活かしていけるようさらに工夫し、個々の体力への関心をさらに深めていきたい。	B
生徒指導	生徒との関わりを大切にし、生徒理解に努めます。特に教育相談については、全生徒の抱える状況を把握します。また各家庭との連絡を密に行い、協力関係作りを努めます。職員間での情報共有を図り、全職員で全生徒を見守ります。さらに、PTA活動や学地協働事業等を通して、生徒の健全育成のために保護者、地域との組織的な連携を図ります。	生徒の活動場所に職員がいることを心かけた。家庭連絡を密にすることで協力関係を築くことができました。定期的な職員の情報共有の場をふやし全職員で全生徒を見守る雰囲気を作ることができた。生徒の安心感と信頼感につなげるため、生徒、保護者との更なる共通理解が必要だと感じた。	B
キャリア教育	①必要な情報を取捨選択し、整理して活かしていく事前学習を計画します。 ②3年間で連続性のあるものにし、過去から自分の意識の変容を見取れるようにします。 ③他教科との横断的な学習を図り、学びのある活動を目指します。	①コロナウイルスの影響により体験学習ができなかったが、勤労観・職業観を身に付けさせる事前学習を計画し実行することができた。 ②キャリア学習で使用した資料を1つのファイルにまとめておくことで、過去から自分の意識の変容を見取れるようにすることができた。次年度も引き続き行っていきたい。 ③キャリア学習で、限られた活動の中で横断的な学習をするのができなかった。各教科と合わせた指導計画を作成したことで、しつかり連携をとってさらに学びのある活動を目指したい。	B
地域連携	学校行事をサポートしたり、校内環境を整えたりする保護者のワンドーサポーター活動を活性化させます。地域連携においては、鯉のぼりフェスタ、スポーツ交流会、もちつき大会などに生徒が自主的に参加できるように工夫し、生徒、職員、地域の交流を深めます。また、学校HPや学校便りによって、保護者や地域に積極的に情報の発信を行います。	今年度はコロナ禍により、保護者や地域と連携した行事等を実施することができなかった。このような状況で、来年度は保護者や地域とどのように連携していくかが課題となった。	B
いじめへの対応	誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりのためにY-Pアセスメントを活用します。また、教育相談やアンケートで、生徒がSOSを発信しやすい仕組みや環境づくりと維持に努めます。いじめと思われる事態が発生した場合には、組織的な情報共有と対応によって迅速に問題解決ができるようになります。	年3回の教育相談や生徒に寄り添った指導を実践することで、生徒が悩みやSOSを発信しやすい仕組みや環境をつくり、維持することができた。また、3回行ったY-Pアセスメントを、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりを活用することができた。いじめと思われる事態が発生した場合には、組織的な情報共有と対応で、生徒の心情に寄り添って迅速に問題解決することができた。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを組織し、リーダーを中心に年間計画を作成・研修テーマに沿って自主的な研修活動を推進するとともに、ステージ3の教職員を助言者や講師に招き経験に基づく実践的な研修を進める。 ②学校閉庁日、留守番電話、毎月の定時退勤日を設定することで、働き方改革を計画的に進める。	メンターチームの自主的な研修が定着し、年間計画のもと毎回様々なテーマを設定し、異なるステージ2・3の教職員が助言者や講師となり、熱心な研究協議や意見交換がスムーズに行われるようになった。閉庁日、課業時間以降と休日の留守番電話設定等が、機会あるごとに保護者・地域にも周知され十分な理解に結びつきつつある。	A
ブロック内評価後の気付き	今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により、小中ブロックでの授業見学や研究協議会は行うことができなかったが、教務主任同士で連絡を取り合い、来年度に向けてこの状況下でも取り組めるような連携活動について考えることができた。9年間の学びの連続性や自分づくりパスポートの運用など今後小中中で連携を取り合って、ブロック全体で1つの目標や課題に取り組んでいく。	今年度も分掌ごとにメールや電話等でブロック間の連携を進めたが、教職員の交流はほとんど実施できなかった。新学習指導要領の実施を1年早く始めた小学校の取組から、観点評価で中学校の参考にした。また、今後は英語教育への取組やプログラミング教育、ICTの推進(端末活用)、校外学習の取組など、小学校での取組を参考にし、連携して中学校の教育活動の発展を目指すことが必要となる。小中間の具体的な取組については、新学習指導要領実践の振り返りから、文言をリニューアルし教職員に周知、取組を進める。	
学校関係者評価	日々落ち着いた様子が見え、生徒指導の充実やいじめ再発防止に向けて、全職員がチーム舞岡として取り組んでいることが感じられる。次年度も、現在の学校の体制を維持・発展できるように取り組んでいってほしい。	日々落ち着いた様子が見え、生徒たちが学校での教育活動に取り組んでいることを、たいへんよろこばしい。また、先生方もなさんで明るい学校とされているのがよわかった。継続していただくことを願う。個々の総括評価は、もっとよい評価でもよいと感じることもある。コンピュータを扱った授業が進んで先生方もたいへんかと思うが、子どもたちのそれらの技能の習得とともに人間関係の育成も大切にしていただきたい。特に、地域内でもあいさつが交わられると和やかになる。小学生だけでなく、中学生にも期待したい。	

中期取組目標振り返り	今年度の学校経営評価アンケートの結果(生徒・保護者)と職員・学校関係者(地域)から、学校経営中期取組目標は一定の評価を得ることができ、おおむね達成したと考える。来年度の新学習指導要領完全実施に向け校内研修の充実と教科会議の連携を図り、わかる授業づくりとともに新しい評価の研修を計画的に進めるよう準備する。不登校・いじめに関しては今後も未然防止を常に意識し、生徒に寄り添った丁寧な指導を学校全体で組織的に進めていく取り組みを継続していく。
------------	--

中期取組目標振り返り	今年度は不測の事態となりながらも、舞岡中学校に関わる全ての人たちがその場に合った臨機応変な行動をとることで現状の中で最もスムーズな教育活動を進めることができていた。そのことは学校評価アンケートで見ても見て取れるので、継続すべき活動についてはしっかりと意識して続けていきたい。また、来年度より本格実施される新教育課程についても評価も含めて、教科会や研修などを行いしっかりと準備することができた。それを次年度にいかし、改善しつつより良い教育活動につなげていく。
------------	--

重点取組分野	3 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①継続されてきた授業のめあてとまとめの提示を定着化し、生徒が明確な目的を持って学べる授業や環境を目指します。 ②小中ブロックの連携をさらに深め、研究協議会等を通してブロックとしての学びについて共通理解を図ります。 ③新学習指導要領についての理解を深め、教科指導についての改善を図ります。また、ICT機器を有効に利用し、多様性をもって授業を行う工夫を行います。	①令和元年度から進めてきた授業内での目標とまとめの提示が定着し、生徒の学びへの意識づけができた。 ②小中ブロックの連携をさらに深め、研究協議会等を通してブロックとしての学びについて共通理解を図ります。 ③観点評価の実施にあたり、各教科で指導と評価の一体化に改めて注目し授業計画を検討・改善できた。今後も研究を継続していく。PC端末等ICT機器を効果的に活用し、学習活動の幅を広げることができた。	B
豊かな心	人権意識の育成のために道徳の授業を充実させ、各教科、領域、行事でも関連して指導します。また、人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長につなげたい。	人権意識の育成のために道徳の授業を充実させ、各教科、領域、行事でも関連して指導します。また、人権講演会や人権標語コンクールを実施して、豊かな心の成長につなげたい。	B
健やかな体	新体力テストの結果を生徒各自が考察し「一人一実践体力向上プログラム」を作成し、自らの生活の中で実践していく態度を育てます。また、保健体育の授業開始時の準備運動において、体つくりのトレーニングに全員が取り組み、体力の向上を図ります。体育大会に向けた屋休みの大縄や、リレーの練習を通して、集団行動や運動技能を身に付け、体力の向上を図ります。	保健体育の体育分野では、授業の中で体力トレーニングや各単元の特性に合わせた運動を行うことで、体力の向上を図った。保健分野では、体力向上に向けた知識を深めた。日常生活に活かしていけるようさらに工夫し、個々の体力への関心をさらに深めていきたい。コロナ禍での感染予防への意識は、全体的にはしっかりともって実践ができていた。体育大会は保護者・地域の方々、応援のない中での実施であったが、生徒はどの種目にも熱心に取り組む取り組みの成果を発表した。	A
生徒指導	生徒との関わりを大切にし、生徒理解に努めます。特に教育相談については、全生徒の抱える状況を把握します。また各家庭との連絡を密に行い、協力関係作りを努めます。職員間での情報共有を図り、全職員で全生徒を見守ります。さらに、PTA活動や学地協働事業等を通して、生徒の健全育成のために保護者、地域との組織的な連携を図ります。	生徒の気持ちや声に耳を傾け、生徒理解に努めます。特に教育相談については、生徒一人ひとりに寄り添った相談活動を全職員が行います。また、家庭との連絡は密に行い、相互に協力することができる関係づくりに努めます。職員間での情報共有を日常的に行い、全職員ですべての生徒を見守ります。さらに、PTA活動や学地協働事業等を通して、生徒の健全育成のために保護者、地域との組織的な連携を図ります。	B
キャリア教育	①主体的に課題解決に取り組む学習を通して、社会の変化に対応できる力を育成することを旨とします。 ②使用した資料を1つのファイルにまとめ、過去から自分の意識の変容を見取れるようにします。 ③各教科と合わせた指導計画に沿って、学びのある活動を目指します。	①コロナ禍のため体験学習や講演の実施ができなかったが、勤労観・職業観を身に付ける事前学習を実行できた。 ②キャリア学習で使用した自分の資料を1つのファイルにまとめ、過去から自分の意識の変容を見取れるようにします。 ③各教科と合わせた指導計画に沿って、学びのある活動を目指します。	B
地域連携	学校行事をサポートしたり、校内環境を整えたりする保護者のワンドーサポーター活動を活性化させます。地域連携においては、鯉のぼりフェスタ、スポーツ交流会、もちつき大会などに生徒が自主的に参加できるように工夫し、生徒、職員、地域の交流を深めます。また、学校HPや学校便りによって、保護者や地域に積極的に情報の発信を行います。	コロナ禍により、保護者や地域と連携した行事等を実施することはできなかった。そのような中、鯉のぼりフェスタや区役所で開催した作品展などに教科や部活動の作品展示の機会を得られたことは、生徒の達成感や充実感につながった。また、このような状況下でも、「舞岡の会」や環境美化委員会による校内の草取りや花植えのボランティア作業で、校内環境を良好に保てていただけた。来年度は、地域と交流する機会をさらに増やせるよう努めたい。	B
いじめへの対応	誰もが安心して参加でき、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりのためにY-Pアセスメントを活用します。また、教育相談やアンケートで、生徒がSOSを発信しやすい仕組みや環境づくりと維持に努めます。いじめと思われる事態が発生した場合には、組織的な情報共有と対応によって迅速に問題解決ができるようになります。	年3回の教育相談や生徒に寄り添った指導を実践することで、生徒が悩みやSOSを発信しやすい仕組みや環境をつくり、維持することができた。また、2回行ったY-Pアセスメントを、自尊感情を高める授業づくり・集団づくりに活用することができた。いじめと思われる事態が発生した場合には、組織的な情報共有と対応によって迅速に問題解決ができるようになります。	B
人材育成・組織運営(働き方改革)	①メンターチームを組織し、リーダーを中心に年間計画を作成・研修テーマに沿って自主的な研修活動を推進するとともに、ステージ3の教職員を助言者や講師に招き経験に基づく実践的な研修を進める。 ②オンライン授業のスムーズな導入が図れるようにICT機器を活用した授業づくりの職員全体研修を計画的に進める。 ③定時退勤日の計画的な実施を進める。	①年間計画に基づき教育活動の多岐にわたるテーマで、校内の教職員が伝え合う・聞き合うという研修の場をもつことができた。メンターチームによる研修という位置づけではあるが、経験のある教職員も参加し、今日の変化の激しい教育活動について研修を深められる場となっている。 ②PC端末の活用に向けて、職員研修も使い、各教科等での使用を進めた。次年度以降、小中での使用を経験した新入生に對して、さらなる活用に向けて準備していく。	A
ブロック内評価後の気付き	今年度も分掌ごとにメールや電話等でブロック間の連携を進めたが、教職員の交流はほとんど実施できなかった。新学習指導要領の実施を1年早く始めた小学校の取組から、観点評価で中学校の参考にした。また、今後は英語教育への取組やプログラミング教育、ICTの推進(端末活用)、校外学習の取組など、小学校での取組を参考にし、連携して中学校の教育活動の発展を目指すことが必要となる。小中間の具体的な取組については、新学習指導要領実践の振り返りから、文言をリニューアルし教職員に周知、取組を進める。	今年度も分掌ごとにメールや電話等でブロック間の連携を進めたが、教職員の交流はほとんど実施できなかった。新学習指導要領の実施を1年早く始めた小学校の取組から、観点評価で中学校の参考にした。また、今後は英語教育への取組やプログラミング教育、ICTの推進(端末活用)、校外学習の取組など、小学校での取組を参考にし、連携して中学校の教育活動の発展を目指すことが必要となる。小中間の具体的な取組については、新学習指導要領実践の振り返りから、文言をリニューアルし教職員に周知、取組を進める。	
学校関係者評価	日々落ち着いた様子が見え、生徒指導の充実やいじめ再発防止に向けて、全職員がチーム舞岡として取り組んでいることが感じられる。次年度も、現在の学校の体制を維持・発展できるように取り組んでいってほしい。	日々落ち着いた様子が見え、生徒たちが学校での教育活動に取り組んでいることを、たいへんよろこばしい。また、先生方もなさんで明るい学校とされているのがよわかった。継続していただくことを願う。個々の総括評価は、もっとよい評価でもよいと感じることもある。コンピュータを扱った授業が進んで先生方もたいへんかと思うが、子どもたちのそれらの技能の習得とともに人間関係の育成も大切にしていただきたい。特に、地域内でもあいさつが交わられると和やかになる。小学生だけでなく、中学生にも期待したい。	

中期取組目標振り返り	新学習指導要領を踏まえて、「授業時のめあてを示し、まとめを行う」という一連の流れを、どの教科においてもどの授業者においてもスタンダードに行うことを進めた。また、教室環境についても小中内で共通したスタンダードな取組やユニバーサルデザインに基づく整備を進め、生徒が変化で戸惑うことのないようにした。学年や学校全体で生徒を育て、成長を見守るとし、チームとしての動きについては、教職員も意識ができるようになっている。今年度も、教職員がより協働して、組織力で生徒への対応、事業への対応ができるようになる。地域との連携は、この2年間ストップしてしまっていたが、管理職、専任が中心となって新しく関係をつくりつつ取り組んでいく。
------------	--